

学校現場に対しての援助に関する研究

- 教員への意識調査からスクールソーシャルワークの可能性を探る -

社会福祉法人品川総合福祉センター 稲垣 隆生 (8193)

キーワード：スクールソーシャルワーク、現場教員、学校が求める援助

1. 研究目的

近年、学校現場ではいじめ問題、不登校、校内暴力、特別支援教育の問題、保護者による過剰なクレームなど様々な問題が山積している。これまで、こうした問題に対しスクールカウンセラーなどの学外の専門職が問題解決にあたり、一定の成果を挙げてきた。また、2008(平成20)年からは文科省がスクールソーシャルワーカーを導入したことにより、スクールソーシャルワークに注目が集まっている。

鈴木(2002)によると、スクールソーシャルワークとは、学校現場において、いじめや不登校、非行、学習困難、そして生活困難のある子どもや家族への介入を行う、子どもに対する養育者や学校・社会環境からの不適切な関わりへの対処をする、そして学校と地域・家庭との連携の閉塞状況を克服する等の実践を行う領域のことであるとされる。現在の学校現場の状況においては、スクールソーシャルワークへの社会的要請は十分にあるといえよう。

しかし、わが国におけるスクールソーシャルワークの実践の歴史は浅く十分な知見が積み上げられてきたとは言いがたい。また、学校現場の教員がこういった援助を必要としているのかを問う調査研究があまりなされていないという課題がある。そこで、本研究では、学校現場の教員に意識調査を行い、スクールソーシャルワークの可能性を検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

調査対象者：東京都、埼玉県、千葉県、青森県に在住する小・中・高等学校の教員 245名に質問票を配布した。その結果、小学校 122名(76.3%)、中学校 33名(20.6%)、高等学校 5名(3.1%)の計 160名から回答が得られた(回収率 65.3%)。年齢の平均は 43.4歳(SD=9.27)、勤続年数の平均は 19.2年(SD=9.78)であった。

調査時期：2009年7月～10月

調査項目：まず回答者に、勤務する学校において、教員以外の専門職の援助が必要であると考えられる児童・生徒を特に印象の深い一人を思い浮かべるよう教示を与えた。そして、現在行われている援助の他に必要だと感じる援助の有無を「あり」「なし」で回答してもらった。次に、「あり」と回答した者については具体的にどのような援助が必要か自由記述で回答してもらった。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会の研究倫理指針に基づき、質問票の扱いには最大限の注意を払った。また、調査の依頼にあたっては、個人が特定されないことがない旨の説明を行った。

4. 研究結果

現在行われている援助の他に援助が必要だと感じているという項目について「あり」と回答した者は66名(41.3%)、「なし」と回答した者は16名(10.0%)、無回答者は78名(48.8%)であった。「あり」と回答した者が4割以上いることから、学校現場で現在行われている援助だけでは不十分であると感じている教員がいる可能性が示唆された。

また、具体的にどのような援助が必要かを問うた自由記述に関しては、専門家等の補助人員の増員に関する記述、保護者への啓発活動及び援助に関する記述、病院・相談機関等の専門機関との連携に関する記述、特別支援学級の効果的な活用に関する記述などといった多様な回答が見られた。さらに、パニックを起こしたり、著しい拒否反応を示したりする児童の心理的機序を知りたいといった回答や、児童相談所だけでは解決できない問題への対処に関する回答、問題とされている児童への環境づくりに関する回答も見られた。

これらの結果から、特定の回答がとりわけ多く見られたというわけではなく、現在の学校現場では児童や保護者の教育ニーズが複雑多様化し、教員側もそれらに応えうる援助体制を必要だと感じているということが言えるのではないだろうか。

今後、必要とされる援助には、学校(教員)・保護者・専門機関の三者の連絡調整役や、児童相談所を初めとする専門機関との連携や社会資源の発掘およびネットワークやシステムづくり、教員や保護者への啓発活動を行うこと、特別支援教育における調整役、保護者のニーズを抽出し教員のニーズと調整をすることなどが挙げられる。

これらは、まさにスクールソーシャルワークの領域であり、今後、スクールソーシャルワーカーなどの福祉職が活躍する下地は十分にある。だが、佐藤・金子(2010)が指摘するように、スクールソーシャルワーカーの職務内容に対する教員の理解度は低いため、スクールソーシャルワーカーがもっと関与するべきであるとの回答は一件もなく、スクールソーシャルワーカーの職務内容の理解が表層的なものに留まっていることは問題である。

そこで、今後は学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの役割や必要性を現場教員や保護者などに啓発していくことが大切であると考えられる。

引用文献

- 鈴木庸祐(2002).学校ソーシャルワークと特別なニーズ教育の実践：学校・地域・家庭のリエゾン 教育学研究,69,56-58.
- 佐藤広崇・金子智栄子(2010).学校現場に求められる援助について スクールソーシャルワーカーに期待される役割と課題 文京学院大学人間学部研究紀要,12,223-236.